

食品保健指導士会会報

〔第7号〕

■発行：平成17年4月1日

■発行所：食品保健指導士会

東京都新宿区市谷砂土原町2-7-27 TEL. 03-3268-3160 FAX. 03-3268-3373

(財団法人日本健康・栄養食品協会教育研修部内)

『食品保健に危機管理の導入を』

東海大学 名誉教授
日本健康科学学会 名誉会員

医学博士 師岡 孝次



いる状態がみられる。

このような状態に対処するためには食品保健の分野に危機管理の考え方を導入する必要があるのではないかと指摘されている。

薬の危機管理を例に検討してみよう。

サプリメントには薬がもつ副作用がなく、安心であるが、薬は日本では非常に沢山利用されており、三百床の病院で月四千万円販売しないと赤字になるとさえ言われている。日本の一般病院では一人の患者に平均五種類の薬を手渡しており、ときには最高二八種類も渡すことがあると言われている。また患者によつては病院を梯子して、多くの病院から薬を沢山もらつて、それを自宅で一度に飲めば非常に危険で、危機到来に

最近では国民が保健・医療・福祉に対して、不安を感じているのでサプリメントに関する情報のニーズが高まり、サプリメントに関する情報氾濫を引起し、食品保健に関連する正しい認識を混乱させて

なるわけである。

月に数十万円の薬代を支払う患者がいる。保険などで支払いはその額より少なくなるが、この金額は世界的にダントツである。

医療費が我が国では三十兆円を越え、アメリカでは百十兆円である。いずれも急激に増加して問題・課題にもなっているのである。

さて、薬の種類が多くなると、いわゆる薬物・薬物相互作用になる危険な作用が起こる。英語ではドラッグ・ドラッグ・インターラクション (Drug Drug Interaction) 略してDDIと呼んでいます。

一人の医師から頂く場合は普通、問題は起きないが、複数の医師から頂き、医師間で連絡がとれない場合は危機が発生するわけである。ある医師が血圧を下げる薬を処方し、他の医師が血管を拡げる薬を連絡なしに出すと、それぞれの薬はなんの危険性もないのだが、同時に服用すると血管が拡がり、さらに血圧を下げるのでダブルショックになり、極端な低血圧になり患者は倒れて一命を落とすこともある。つまり、薬による患者の健康危機になるわけである。

危機を予想して予め対応策を立てておくことが危機管理の基本なのである。食品保健の分野でもサプリメント関連の情報が氾濫しているので危機管理の考えを導入して対処して頂きたい。

教育研修部たより

(財) 日本健康・栄養食品協会

教育研修部 部長 尾 辻 暢



★ 平成一六年度における教育研修部に係る事業の実施状況は、次のとおりです。

一 食品保健指導士養成講習会は、第一期(六月)、第二期(九・一〇月)、第三期(一一・一二月)及び第一四期(平成一七年一・二月)の四回開催し、新規受講者は各期合わせて一一七名でした。

新規受講者の内訳は、性別では女性が六八名、男性が四九名と女性が全体の五八%を占めております。年齢別では三〇歳代が最も多く五〇名(約四八%)、二〇歳代と四〇歳代がそれぞれ二四名、五〇歳代が一五名、六〇歳以上の方が四名となっております。また、受講者が属する業種では、製造業が過半数を超え、このうち製品企画・研究・開発部門関係がトップを占めております。

二 修了評価認定試験は、第五回(六月)及び第六回(一一月)の二回実施され、この結果、新たに一五五名の方々が「食品保健指導士」として認定されました。これで食品保健指導士の総数は六一二名となり、健康食品関連分野及び全国各地域においてアドバイザリースタッフとしての役割を担うこととなります。

三 (財) 日本健康・栄養食品協会は、ご承知のように食品保健指導士の皆様に「指導士通信」を通じて健康食品に関連する最新の情報を継続的に提供するとともに、講習会の講師、健康食品関連のイベントの説明・指導員として派遣する等その活動を全面的に支援してきましたところ。特に平成一六年度は、毎月一回開催する「JHFAマーク関連の素材勉強会」を始めセミナー、講習会等への参加を積極的に受け入れて、食品保健指導士の自己研鑽の場を提供してきました。

★ 食品保健指導士会の課題…発足三年目を迎え、組織として自立するための道筋を作ることが当面の課題かと考えます。

食品保健指導士は聖なる職能

食品保健指導士会

会長 杉浦 上太郎



新しい方を含め、六一二名の食品保健指導士の皆様には、お元気でお過ごしのことと存じ上げます。

さて、去る一月二二日、東京医科大学において「日本健康科学学会二〇周年記念シンポジウム」が開催されました。同学会の会長信川益明先生のご高配により、小職もシンポジストの一人として連なり、「食品保健指導士とその活動」について講演をいたしました。

講演の準備に当たり、食品保健指導士養成講習会にて、信川先生よりご指導いただいた包括医療、プライマリ・ケア等について復習をしているうちに、日本健康科学学会や健康日本21、保健機能食品制度、また食品保健指導士誕生などの厚生行政が一本の糸でつながっていることに改めて気付きました。

その糸の源は、今から二七年前に、ソ連のアルマ・アタにおいて、WHOとユニセフが共催し、一三四カ国の代表を集めて「プライマリ・ヘルスケア国際会議」が行われ、『アルマ・アタ宣言』がなされたことにあります。同宣言は、参加諸国の人びとはみな「自助と自決の精神」で地域社会のヘルス・ケアに参加すべきだとし、全人類の健康を守る保健水準はいま世界中で戦争・軍備に費やされている資源を活用すれば、二〇〇〇年までに間違いなく達成できるとしています。プライマリ・ケアの用語もその時から使用されるようになりました。その宣言を受け、翌年のWHO総会において、「二〇世紀末までに世界の人々が健康になるよう各国は政策を履行すべきである」という決議をしました。

二〇世紀はとうに過ぎてしまいましたが、そのヒューマニズムに徹した崇高な決議は、今でも脈々と生きている国際的コンセンサスです。

私たち食品保健指導士は、その延長線にある聖なる職能であります。(財) 日本健康・栄養食品協会や日本健康科学学会等の指導を得つつ、地域の自治体や医療・保健関係者と手を携えて、自己研鑽を積み、人間性を磨いて、プライマリ・ケアを堂々と実践していききたいものです。

全国健康関係主管課長会議における
新開発食品保健対策室の説明事項

厚生労働省は二月四日（金）、都道府県等を対象とした全国健康関係主管課長会議を、同省講堂で開催しました。

田中慶司健康局長は、挨拶において「健康日本21と健康フロンティア戦略を車の両輪として健康増進対策をすすめる必要性」を現状の課題を踏まえて強調されました。

厚生労働省医薬食品局食品安全部基準審査課新開発食品保健対策室（阿部充室長）からは、次の事項について説明があり、都道府県等に対し、対応、協力等を依頼されました。

一、「健康食品」に係る制度の見直しについて
（一）経緯及び見直しの趣旨
（二）見直しの概要

- 特定保健用食品における表示内容の充実
 - 保健機能食品における表示の適正化
（平成一七年五月一日施行予定）
 - 安全性に関する事業者の自主管理の促進
 - 「健康食品」の適切な利用のための普及啓発等
- 二、特別用途食品制度について
- 三、栄養表示基準制度について
（平成八年五月二四日制度化、平成一〇年

四月一日全面施行（栄養改善法、現健康増進法）

- ① 規制の対象となる表示栄養成分・熱量の範囲
- ② 表示すべき事項及び方法
- ③ 強調表示の基準
- ④ 健康食品等による健康被害の発生・拡大の防止について
- ⑤ 「健康食品」の安全性・有効性データベースについて
- ⑥ 健康保持増進効果等に関する虚偽誇大広告の禁止について
- ⑦ 「健康食品」の表示に係る監視指導について

条件付き特保が新設されました

厚生労働省医薬食品局は、平成一七年二月一日、条件付き特定保健用食品等を新設する新たな「健康食品」制度を施行しました。

「健康食品」制度の見直しに伴い、健康増進法と食品衛生法の施行規則の一部改正省令、栄養表示基準の一部改正が、一月三十一日公布、二月一日に施行されています。

「条件付き特保」は現行四八三食品に比べ、作用機序と、有効性を確認する比較試験の二

方向からの審査基準を緩和したものです。作用機序が明確で危険率が5%以下という科学的根拠レベルには届かないが、危険率が10%以下など一定の有効性が確認される食品を、「条件付き」で許可対象とするものです。

表示内容は、条件付きとされた旨を記載します。また、従来の特保マークに「条件付き」の文言を表示し、現行の特保との差別化がはかられています。外国からの申請を承認した場合には、厚生労働省承認という承認マークをつけることとなっています。

様式第4号の2
（第14条関係）



様式第6号の2
（第14条関係）



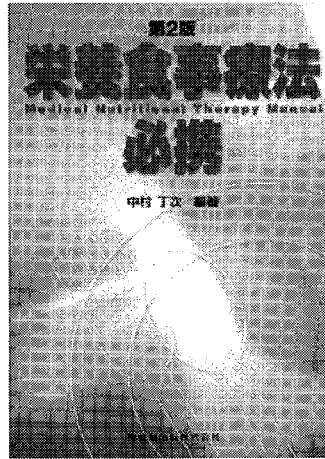
「食品保健指導士会会報」の連載記事として、毎号、皆様方の日々の活動に役立つ「行政情報」や「学術情報」等をお届けいたします。
（写真は淀川都副会長）

「食品保健指導士」必読参考書

|| 中村先生にご推薦 ||

神奈川県立保健福祉大学教授の中村丁次先生に依頼し、食品保健指導士が、日常、自己研鑽する上で有用と思われる参考書を、先生ご自身の著述・編書の中から推薦していただきました。ぜひ活用下さい。

『栄養食事療法必携』第二版



■頁数：380頁 (B5判)
■発行年月：2002年3月
■発行：医歯薬出版
■価格：¥3,360 (税込み)

本書は、(財)日本健康・栄養食品協会理事長の細谷憲政先生が推薦されており、その推薦の言が本書の特徴を端的に表現しておりますので、以下に転載いたします。

『この数年間、臨床栄養に関する分野の進歩に目を見張るものがある。身体の栄養状態を評価・判定する栄養アセスメントの研究・開発が進み、それに伴うデータの集積、またこれを活用した経腸栄養法や静脈栄養法による効果的な栄養補給の管理・運営が行われて

いる。すなわち、栄養補給を適切に実施することによって患者の生命を維持し、疾病の治療・予防に貢献し、QOLの向上に寄与している。

一方、現在では evidence-based medicine 科学的根拠に基づいた医療の施行が叫ばれている。栄養の分野においても evidence-based nutrition care 科学的根拠に基づいた栄養の管理・運営が求められている。そこで、従来から実施してきた栄養療法や食事療法は、基本的な立場から、その内容や実施のあり方を見直して、科学的根拠を再検討する必要がある。本書においては、最近の医学的な進歩を取り入れ、新しい観点から疾病を解説すると同時に、疾病時における栄養素の代謝の特徴、症状との関連などを記述している。また、それに伴う診断基準や治療指針についても、科学的根拠に基づいた証拠を示して解説を行っている。さらに、これに関連する栄養素の摂取基準の明示、特別用途食品などの活用法、栄養補給法、治療食のあり方、栄養指導などについて、新しい観点からわかりやすく解説している。また多くの文献も紹介している。

中村博士は、臨床栄養領域の第一人者であり、また日本の栄養士が臨床栄養領域で活躍することを推進しているパイオニアのリーダーでもある。本書は、こうした観点からも最も活用すべき書籍であり、また医療や介護の領域で活躍することを目指す学生にとっては必須の教科書といえる。

一九九九年八月

東京大学名誉教授 細谷憲政

『食事指導のABC』



■頁数：432頁 (B5判)
■発行年月：2002年5月
■発行：日本医事新報社
■価格：¥5,775 (税込み)

日本医師会が編集した生涯教育シリーズ。本書は、各種疾患の食事療法に先立ち、健康の維持・増進のための「バランスのよい理想的な食事」(座談会)や、「食事指導のための基礎知識」の記述。また疾患の予防・治療についても、必ず合併症のある場合の注意点を解説し、実際の食事指導のよきガイドとなるよう工夫。患者の希望に応えられると同時に、自分の食生活をセルフチェックできるような「簡易食物摂取状況調査表」が付され、指導する側と指導を必要とする側の双方からアプローチできる一つの方法を示しています。

|| 目次 ||

- カラー口絵 栄養のゆくえ
- 第一章 座談会・バランスのよい理想的な食事
- 第二章 食事指導のための基礎知識
- 第三章 栄養成分別の食事管理
- 第四章 疾患別食事指導の実際
- 第五章 ライフステージ別食事指導の実際
- 第六章 外食の栄養バランス
- 第七章 臨床医のための最新栄養情報

『食べかた上手』

『食を変えて100歳まで生きる』



■頁数：254頁 (B6判)
■発行年月：2003年11月
■発行：幻冬社
■価格：¥1,470 (税込み)

中村先生が、神奈川県立保健福祉大学の教授になつてから著述された本です。

巻頭に聖路加国際病院理事長の日野原重明先生が、本書を次のように推奨しております。

『日本における栄養の理論と実践の両方面での第一人者として知られている中村丁次先生が、このたび「食べかた上手は百歳までの長寿に連なる」という食事療法の内容を分りやすく書かれたこの本を出版されました。私は先生と長年にわたり世界の新しい栄養学を紹介する雑誌の編集にかかわってきました。その間に中村先生の学識とその実践に非常に教えられることがありました。この本には健康を維持し、生活習慣病を予防し、体力を増進させる食事のとりかたをはじめ、先生の長年の経験からいろいろな実例が紹介され、人はなぜ癌や高血圧や心臓病並びに糖尿病になるかがわかりやすく書かれています。そのための食事献立や食事のとり方が新しい栄養学の現場の下に解説され、誰でもが理解できる

のです。』

また、「ヒューマンサービスの栄養学を求めて」と題したあとがきには、中村先生の人間栄養学に対する考え方、また職業観が如実に示されており、以下にその概要を紹介いたします。

徳島大学で栄養に係る生化学の研究をしていたとき、ある医師が言ったひとつ「栄養学の理屈を分っているだけではだめなんだ。人は栄養素を食べているわけではない。料理を食べているんだ」に触発されて中華料理の達人陳建民氏に弟子入りをして料理修行をしたこと。

その後、聖マリアンナ大学に勤務し、全国にさががけて、斬新的な病院食の改革を実行されたこと。

さらに、同病院に勤務して三年目に、我が国初の栄養相談を開設した頃、韓国で開催された「アジアの栄養政策を考える」というテーマのワークショップに参加し、東京大学教授（現在は名誉教授、財団法人日本健康・栄養食品協会理事長）の細谷憲政先生と出会い、その時、細谷先生が熱く語った「食物を研究対象にするだけではなく、人間を対象とした栄養学研究をしなければ、これからの日本の栄養学はだめになる」という言葉にも触発を受けたこと。

そして最後に、『高齢化社会を迎えるにあたって、生活習慣病をこれ以上増やさないためには、人間栄養学の体系化と普及が必要で、本当に人の健康のために役立つ栄養学が、病院や老人施設などで、管理栄養士、栄養士

により、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、さらに理学療法士などの連携のもとに、ヒューマンサービスとして実践される日のため、私は当分現場を離れ、人材育成する側に回ろうと思います』と、大変感銘深い言葉で結ばれています。

目次

本書を読まれる方に 聖路加国際病院理事長

日野原重明

はじめに 日本の中高年は病院依存症!?

第一章 医療現場はパンク寸前

第二章 食べかたが間違っているから大病になる

第三章 流行の健康法は間違いだらけ

第四章 やってはいけない勘違いダイエット

第五章 食べかた上手で若さを保つ

第六章 ピンピン生きてコロリと死のう

あとがき ヒューマンサービスのための栄養学を求めて

中村先生が、ご自身の長年の研究と栄養指導の実践にもとづいて著述された本書は、私たち食品保健指導士やその他医療や医薬、栄養に係る多くの職業者にも分りやすい参考書として好適です。また場合によっては、私たちから、消費者へも一読を奨めてよい本であると思います。

(文責：杉浦上太郎)



日本健康科学学会

『二〇周年記念

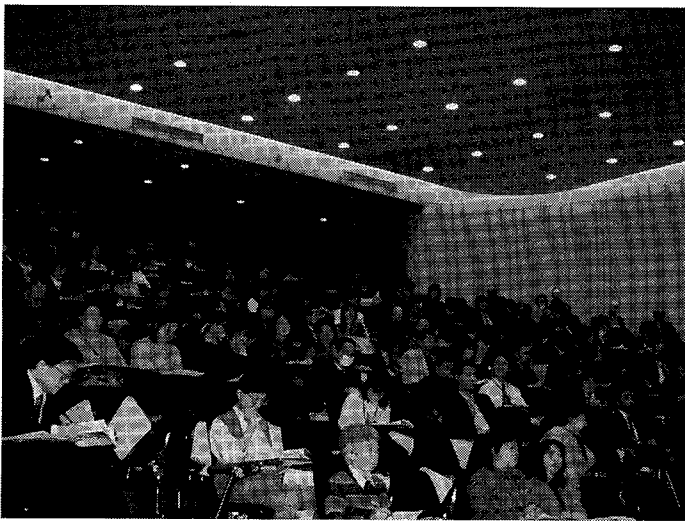
シンポジウム』特集

■開催日：平成一七年一月二二日（土）
■会場：東京医科大学臨床講堂

食品保健指導士養成講習会で「健康補助食品と保健」の講師をされております信川益明先生（杏林大学医学部総合医療学教室助教）が会長となっている日本健康科学学会主催の「日本健康科学学会二〇周年記念シンポジウム」が去る一月二二日に開催されました。シンポジウム開催に当たり、(財)日本健康・栄養食品協会とともに食品保健指導士会も協賛いたしました。

日本健康科学学会設立の目的は、次記のとおりです。

『日本健康科学学会は、健康に関する学問領域の拡大と健康の概念の変化に対応するために、一九八五年に設立され、今年、創立二〇周年を迎えました。現在の会員数は約七〇〇名です。広い分野の専門領域の方々に参加していただき、健康に様々な角度からアプローチしてもらふことにより、健康を科学的に捉えるとともに、様々な異なる専門分野の間のコミュニケーションを活発に行うことを目的としています。健康科学は研究や教育の場から必ずしも生まれた学問体系ではなく、日常生活の場から生まれ、人間の生活の営み



日本健康科学学会・20周年記念シンポジウム＜会場風景＞



20周年記念シンポジウムで講演される信川会長

とともに今を生きているものです。この意味で日常生活を営む住民から乖離して、健康を科学的に捉えることはあり得ません。健康に関する学問が、地域住民の日常生活において活用される環境づくりにも積極的に取り組んでいきたいと考えています。』(信川会長記)

Ⅱ当日のプログラムⅡ

* (財)日本健康・栄養食品協会については、日健栄協と記す。

シンポジウムⅠ「サプリメントの最新情報」

一、「保健・医療とサプリメント」

日本健康科学学会会長 信川 益明

二、「健康食品に係る制度のあり方に関する検討会の提言について」

日健栄協専務理事 田中喜代史

三、「コーデックスにおけるヘルスクレームと保健機能食品」

ダニスコジャパン(株)学術担当

最高顧問 浜野 弘昭

四、「諸外国におけるHealth Claim」

バイオヘルスリサーチリミテッド代表

取締役、N N F A ジャパン代表、科学・

法務担当ディレクター 大濱 宏文

五、「いわゆる健康食品と健康補助食品

(JHFAマーク表示許可)」

日健栄協健康食品部長 石田 幸久

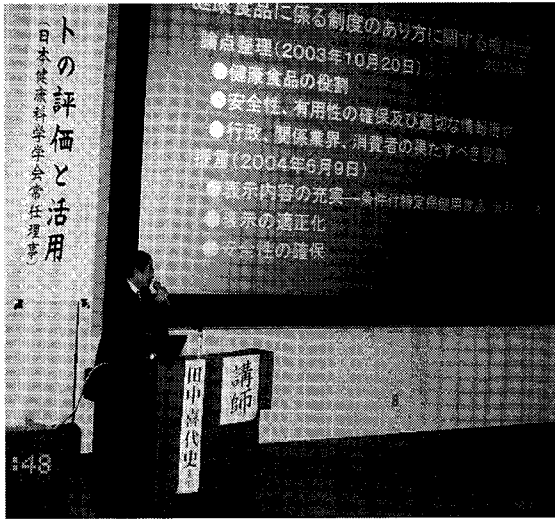
シンポジウムⅡ「サプリメントの評価と活用」

一、「CRO (Contract Research Organization、

開発業務受託機関)」

健康・栄養食品CRO連絡会会長

梶本 修身



20周年記念シンポジウムで講演される田中専務理事

二、「特定保健用食品(保健機能食品制度発足後の状況)」
日健栄協特定保健用食品部長

安田 節

三、「Oral Nutrition Supplement (ONS)と特別用途食品」

日健栄協栄養食品部長 伊藤 仁

四、「サプリメント(栄養補助成品)と臨床栄養師」

日健栄協理事長 細谷 憲政

五、「食品保健指導士とその活動」

食品保健指導士会会長 杉浦上太郎

当日は、多くの食品保健指導士も参加され、三五〇名収容の東京医科大学臨床講堂はほぼ満席に近く、盛況となりました。

幅広い観点からの健康に係る活動をする同学会は、今後益々の発展が期待されます。

日本健康科学学会

『二〇周年記念シンポジウム』に

参加して



千葉県千葉市 原田まり子

一月二二日に開催されました日本健康科学学会主催の日本健康科学学会二〇周年シンポジウムに参加させていただき、多くの有意義なお話を聞くことができました。特に印象深かったのが信川先生のご講義でふられたプライマリ・ケアの役割についてでした。

私は栄養士の仕事に二〇年間携わり、二年前にアイノアール有有限会社を設立し健康補助食品の販売を行っております。消費者の方のために設けた相談窓口には、毎日多くのお客様さまからの健康相談やお問い合わせをいただいております。その都度、食品保健指導士として健康補助食品についてのアドバイスや栄養士としての栄養指導をしておりますが、健康補助食品や栄養指導だけでは解決できない病気の方もいらっしゃいます。健康補助食品だけでは限界があることも事実です。

私たち食品保健指導士は資格取得後も生涯研修とともに、保健、医療、福祉などの関係者とコミュニケーションを図り、連携できる関係を築き上げていくことが大切であり、い

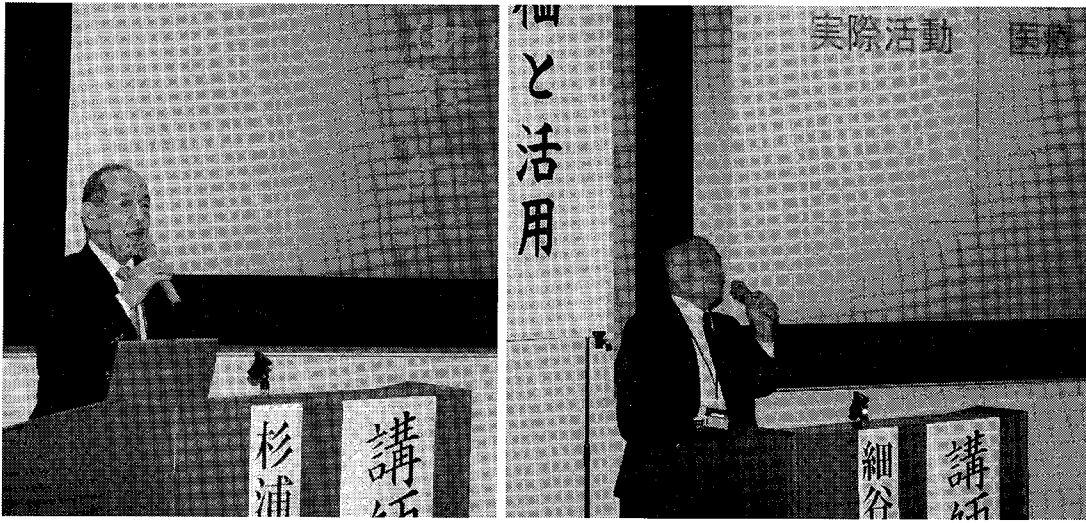
わゆる「かかりつけ医」と同じようなプライマリ・ケアの役割が重要であるという信川先生の講義の内容は、今の私の業務の中での問題解決の糸口であると感じました。お客さまに喜んでいただけるように、業務を通じてこのプライマリ・ケアを目指していきたいと思えます。

また細谷先生が二〇年前から取り組んでこられて「臨床栄養師」の育成と導入については私自身の新たな目標を持つことができ、さらなる挑戦をしたいという決意を固めることができました。

食品保健指導士の皆さまには、常に情報収集心がけるためにもこのようなシンポジウムや研修会にはできる限り参加していただきたいと思えます。それぞれ異なった職業でそれぞれの立場があると思いますが、必ず今後の活動に役立つ情報を得ることができれば、今回のシンポジウムもそうでしたが、このような講義は個人や一般企業ではなかなか受けられるようなものではなく貴重なものだと思えます。食品保健指導士という資格はこのように生涯研修を受けることによって、指導士としての知識を深め、人格を形成し、人脈を広げていけることに意義があるように思えます。私も資格取得後しばらくは、このような研修会に参加しておりませんでした。今回参加させていただいて、もっと早い時期から参加しておけばよかったと思っておりません。自分から進んで参加しなければ何も始まらないということがよくわかりました。

このような記念すべきシンポジウムに参加

でき、(財)日本健康・栄養食品協会の皆さまをはじめ関係者の皆さま、ご講義いただいた先生方に心から感謝しております。ありがとうございました。



20周年記念シンポジウムで講演する杉浦会長

20周年記念シンポジウムで講演される細谷理事長

うございました。

東京都三鷹市 松本三恵子



一月二二日、東京医科大学臨床講堂で開催された日本健康科学学会シンポジウムに参加しました。

このことについては食品保健指導士会会報で知りました。

午前の部は、日本健康科学学会会長の信川益明先生より「保健・医療とサプリメント」、(財)日本健康・栄養食品協会(以下日健栄協と記す)専務理事の田中喜代史先生「健康に係る制度のあり方検討会の提言について」、浜野弘昭先生「コーデックスにおけるヘルスクレームと保健機能食品」、大濱宏文先生「諸外国における Health Claim」、日健栄協の石田幸久先生「いわゆる健康食品と健康補助食品(JHFAマーク表示許可)」。

午後の部は梶本修身先生「CRO(開発業務受諾機関)」、日健栄協の安田節先生「特定保健用食品(保健機能食品制度発足後の状況)」、日健栄協の伊藤仁先生「Oral Nutritional Supplement(ONS)」と特別用途食品、日健栄協理事長の細谷憲政先生「サプリメント(栄養補助食品)と臨床栄養師」、食品保健指導士会会長の杉浦上太郎先生「食品保健指導士とその活動」と続き、紙面だけでは読み取る事の出来ない情報を得ました。

午前の部・午後の部のそれぞれ最後には、総合討議・質問が行われ、先生方と受講者と

も情報収集・交換ができ、受講して本当によかったと思えました。質疑応答の中で印象に残ったのは、「授業の内容だけで管理栄養士の資格をとっても今後の栄養指導についてとても不安を感じていましたが、今回のシンポジウムに来て食品保健指導士の活動状況に興味を持ち、また勉強する意欲を持ちました」とある学生さんが語ってくれたことです。

また講義してくださった先生方も、食品保健指導士にとって講義でおなじみの方々であったので、指導士として貴重な無形の財産を得ていたということを改めて感じました。

懇親会ではアルコールも入り、文字通り先生方と膝を突き合わせての交流の場となり親交も深まりました。指導士の方々の参加も多く、活動状況の話や情報交換となったことはいまでもありません。いろいろなセミナーに参加し、最新の情報や交流をもつことは自分を研鑽するとともに、新たな興味・問題意識をもつことになりそうです。これから機会があるごとに参加したいと思います。

このシンポジウムに参加したことを契機に改めて、サプリメントに対するイメージが同じではない今日の社会にあって、食品保健指導士としては、消費者に対して科学的根拠に基づく情報提供及び教育をしていく責任を認識して活動していくことの重要性を感じました。少しでも消費者の要求にあったよりよいサプリメントを選ぶ目を育てていくことも大事だと思いました。

今回のことを弾みとして、地域に根付いた活動に努力してまいりたいと思います。

(表3) エリア別分布

地区名	人数	比率
北海道	5	0.9%
東北	16	3.0%
関東	327	61.4%
北陸	6	1.1%
信越	6	1.1%
中部	55	10.3%
近畿	44	8.3%
中国	37	6.9%
四国	4	0.8%
九州	33	6.2%
合計	533	100.0%

(表2) 活動フィールド

勤務内容	人数	比率
企業勤務	381	71.5%
病院勤務	31	5.8%
薬局・薬店勤務	19	3.6%
公立機関勤務	12	2.3%
短大・大学教員	8	1.5%
介護施設勤務	5	0.9%
フリー管理栄養士	2	0.4%
歯科医院経営	1	0.2%
整骨院経営	1	0.2%
保育施設勤務	1	0.2%
自営	9	1.7%
大学院生	2	0.4%
その他	61	11.4%
合計	533	100.0%

(表1) 公的資格及び学位取得者

資格内容	人数	比率
管理栄養士等	136	25.5%
薬剤師	76	14.3%
看護師等	7	1.3%
医師	4	0.8%
獣医師	4	0.8%
歯科医師	1	0.2%
臨床検査技師	10	1.9%
物理療法士等	7	1.3%
調理士	7	1.3%
保育士	1	0.2%
学位取得者	14	2.6%
小計	267	50.1%
重複取得者	-20	-3.8%
なし	286	53.7%
合計	533	100.0%

食品保健指導士の
ポテンシャル

日本健康科学学会二〇周年記念シンポジウムで講演した杉浦会長資料より抜粋。

(表4) 活動状況＝平成14年8月～平成16年10月＝

実施内容	件数	派遣人数
①地方自治体への講師派遣	29	29
②地方自治体の出版物への執筆協力	1	1
③業界新聞社主催健康補助食品展示会における財団法人日本健康・栄養食品協会の説明要員派遣	6	22
④業界新聞社主催健康補助食品展示会への講師派遣	1	1
⑤NPO健康補助食品団体への説明要員派遣	1	2
⑥企業の店舗開設への協力	2	2
⑦企業内研修会への講師派遣	1	1
⑧企業主催の消費者対象講演会への講師派遣	2	2
⑨大学主催の消費者対象講演会への講師派遣	2	2
⑩病院内研修会への講師派遣	1	1
⑪病院主催の消費者対象講演会への講師派遣	1	1
⑫生活協同組合主催の講演会への講師派遣	1	1
⑬消費者団体主催の研修会への講師派遣	1	1
⑭地方新聞社のインタビュー協力	1	1
合計	50	67

食品保健指導士の皆様如何お過しでしょうか。それぞれの地域や企業等でご活躍されていることと思いますが、どの様に指導士として活動をしたらよいか戸惑っている方も多数いらっしゃると思います。

去る一月二二日、日本健康科学学会二〇周年記念シンポジウムで、杉浦会長が「食品保健指導士とその活動」という演題で講演をされましたが、食品保健指導士の役割を明確に伝えておられたと思います。

今後、食品保健指導士会を盛り上げ、発展させていくためには、食品保健指導士相互のコミュニケーションを図る事が、まず第一と考えています。それぞれの指導士の得意分野を伸ばし、不得意分野を補えるような活力のある支部を作りたいと念願いたしております。その前段階として、すでに活動を始めている「千葉県食品保健指導士の集い」に続きまして、ぜひ「東京都食品保健指導士の集い」を立ち上げたいかかと考えております。

Ⅱ 東京都食品保健指導士の集い 発起人 Ⅱ

岡村 澄子 山田 明子 平田 光輝
永井 照和 山本 容子 渡邊 笑淳
松本三恵子 藤沢 京子 松山理恵子
(九名：敬称略)

東京都北区 松山 理恵子

◆ 伝・言・板 ◆
「東京都食品保健指導士の集い」
を立ち上げませんか！

東京近郊の方々も含めまして、全員の方に
ご連絡できませんので、食品保健指導士協会
報の誌面をお借りして呼びかけをさせていた
だいた次第です。

多くの指導士の知恵を結集させ、社会貢献
に寄与し、早く食品保健指導士の認知度を高
めたいと思います。

つきましては五月、もしくは六月に第一回
の集いを開催いたしたいと思っております。

《告知》

第二期食品保健指導士会

幹事募集のご案内

平成一七年三月三十一日をもって第一
期の食品保健指導士会幹事の任期が満
了となります。

第二期の幹事を広く募集いたします。
積極的な応募をお願いいたします。

新しい幹事は、(財)日本健康・栄
養食品協会及び現幹事会において協議
の上候補者を推薦し、五月開催の通常
総会の決議を経て決定されます。

◎応募期限／平成一七年四月三〇日

◎応募先／杉浦会長宛て

・ Fax : 04-7155-4179

・ E-mail : jsugira@jcom.home.ne.jp

平成一七年度通常総会の通知

・ 開催日：平成一七年五月二七日 (金)

・ 詳細案内：別紙参照

ご賛同頂ける方は、お名前と、ご住所または
メールアドレスをご連絡下さい。日程と場所
は決まり次第ご連絡いたします。

・ 連絡先：松山理恵子

・ Fax : 03-5685-1369

・ E-mail : mhappy@mx2.tcn.ne.jp

食品保健指導士会活動状況

● 日本健康科学学会

Ⅱ一〇周年記念シンポジウムⅡ

▽ 平成一七年一月二二日 (土)

▽ 於：東京医科大学臨床講堂

▽ 杉浦会長講演「食品保健指導士とその活
動」

● 平成一六年度第九回幹事会

▽ 平成一六年一月二六日 (水)

▽ 於：ネット会議 (電子メール、FAX)

▽ 対応幹事／杉浦会長、淀川副会長、石井・

大沼・川村幹事 (五名)

▽ オブザーバー／日健栄協・尾辻教育研修
部長 (一名)

▽ 議題／①日本健康科学学会報告、②会報
第七号編集方針、③その他

● 平成一六年度第一〇回幹事会

▽ 平成一六年二月一七日 (木)

▽ 於：(財)日本健康・栄養食品協会4F

▽ 出席予定の幹事が二名のため流会とした。

● 平成一六年度第一一回幹事会

▽ 平成一七年三月一〇日 (木)

▽ 於：(財)日本健康・栄養食品協会1F

▽ 出席幹事／杉浦会長、吉田幹事 (二名)

▽ オブザーバー／日健栄協・尾辻教育研修
部長、栗原職員 (二名)

▽ 議題／①会報第七号編集、②食品保健指
導士必携資料、③幹事改選、④通常総会
開催、⑤教育研修部活動情報、⑥その他

☆編集後記☆

▽ 本会報第七号の発行準備月は、食品保
健指導士会の初代幹事任期満了の月
でもある。辿りつけたか否か一里塚。

▽ 食品保健指導士養成講習会の人気講
師の師岡孝次先生に巻頭言を賜った。

▽ 危機管理の重みを厳と受け止めた。
再び、中村丁次先生にお世話になっ
た。先生自薦の珠玉の参考書は、食品

保健指導士の業務遂行上すぐ役に立
つもの。先生のヒューマニズムも…。

▽ 日本健康科学学会の信川益明会長に、
多大なる配慮をいただいた。これを契
機としてプライマリ・ケアにおける食

品保健指導士の面目躍如といきたい。
千葉県に続いて東京都にも「食品保健

指導士の集い」の機運が盛り上がって
きた。大いに期待したい。(杉風記)